【ワイン用ぶどう栽培開始】

新聞掲載記事　～２年「果樹」～

平成３０年５月５日　北海道新聞

ワイン用ブドウ 栽培に挑戦

余市紅志高生

地元醸造所協力へ

【余市】余市紅志高（上田徹校長）は地域の基幹産業を学ぶ学習の一環として、本年度からワイン用ブドウの試験栽培を始める。本格的な栽培は来年度からだが、地元ワイナリー（ワイン醸造所）に協力を求め、将来的には同校産の醸造用ブドウに育てる考えだ。（竹内博）

同校は2、3年生の選択科目として果樹や野菜栽培など4科目を設置。果樹栽培ではサクランボやプルーンを栽培しているが、ワイン用ブドウは初の試み。担当の大野悟教諭(41)が中心となり昨年から、ワイン醸造を行う長野県立塩尻志学館高を見学するなど準備を進めてきた。

ブドウ栽培には同校の卒業生が就職した平川ファーム(平川敦雄社長)が協力。同校ほ場で赤ワイン用ブドウの代表的品種「ピノ・ノワール」を5ヘクタール作付けする計画だ。本年度は同ファームの指導で、苗木作りや栽培のノウハウを学ぶ。

2日には果樹栽培を学ぶ同校の2年生10人が、平川ファームで挿し木作りの実習に励んだ。同社の田村英昭農場長と同校OBの曽我部磨玖(まく)さん(19)が指導。曽我部さんは「後輩と一緒にブドウ作りを学ぶつもりで応援したい」と話す。

大野教諭は「醸造できるブドウに育つには5、6年かかる。今年はしっかりとした苗作りを生徒と一緒に取り組み、来年度に備えたい」と話す。同校の藤橋昌俊教頭は「余市紅志高産のワイン用ブドウが栽培できたら、地域貢献にもつながる」と夢を膨らませる。

平川ファームでワイン用ブドウの挿し木作りを学ぶ余市紅志高生＝２日

※　ＨＰ掲載にあたり、北海道新聞社からの許可を得ています。